回覧

生浜地域誌

第７１号
2024.9.30
発行
NPO 法人
ちば・生浜
歴史調査会
電話
080-5387-
2592

活動報告

体験　講座名

「布ぞうりづくり」

快適ライフのお手伝い

７月１３日(土)

9:30～11:30

旧生浜町役場庁舎１階

講師　白井昭代(本会会員)

参加者　９名

活動報告体験講座名

「まが玉づくり」7 月２８日(日)　9:30～11:30　講師・萩原邦明(本会会員)　参加者　11 名　旧生浜町役場庁舎１階

…自分でアクセサリーをつくってみました …

四角いロウ石を紙やすり等でけずってオリジナルな「まが玉アクセサリー」をつくりました。磨けば磨くほど、まるで宝石のようにツヤがでてきます。「石を削るのが楽しかった」と参加の小学生女子の感想。

歴史の記録でははじめは「曲玉(まがたま)」と書かれており（古事記)、その後「勾玉(まがたま)」と表記されているようです（日本書紀)。「勾玉」の「勾(こう)」という文字は曲がっている様子を意味する漢字です。

Q:何のために？

A:古代の日本における装身具の一つで、祭祀の時に身につけた。

当時は人が身に着　ける装飾として用いられた。

Q:いつごろから？

A: 縄文時代後期頃から古墳時代くらいに作られた装飾品です。

Q:なぜこんな形に？　A: 勾玉の頭部の部分は太陽を表し、　尾の部分は月を表していると考えられ、太陽と月が重なり合った形は宇宙を崇拝してい　たともされています。

令和６年度　賛 助 会 員 紹 介

・浜野郵便局長　千葉綾子様・叶親重信様(浜野町)・生実町町内会様・田村敏孝様(黒砂)

行事案内

歴史散歩

「浜野を歩く」　コース(２時間半)

６０００歩程度　雨天決行

11 月 17 日(日) 申込締切 11/9 土

- 旧町役場集合　9:15
- 塩田天満宮
- 浜野川に沿って生浜高校へ
- 浜御蔵の見学
- 浜野の河岸
- 本行寺見学
- 諏訪神社見学
- 浜野会館でDVD放映「海苔のできるまで」視聴。定員30名

講演　歴史講座①

浜野の古墳『浜御蔵』について」

講師:塚原勇人先生(千葉市埋蔵文化財調査センター)　申込締切 11/2 土

日時:11 月９日土曜日 9:30～11:30 定員30名

場所:生浜公民館(千葉市中央区生実町 67-1)1 階

講演　歴史講座②　「浜野の神社」について」

講師:今井公子先生(本会会員) 申込締切 10/26 土

日時:１１月２日土曜日 9:30～11:30 定員30名

場所:浜野会館（千葉市中央区浜野町 1242-1)

申込はこちら･･･NPO 法人ちば･生浜歴史調査会
(旧生浜町役場庁舎管理受託者)

電話　043－265－8816(火･木･土曜日 9:30～16:30)

上記日時以外は、080－5387－2592へ(伝言･ショートメール可)

旧生浜町役場庁舎千葉市中央区浜野町1290－3(火･木･土 9:00～16:30 開館)

南生実町にある
八剱神社（やつるぎじんじゃ）の
「神楽（かぐら）」を見学（けんがく）して

2024 年 7 月 27 日（土）に南生実町の八剱神社で奉納された神楽を見学したので報告します。　午後６時半より途中休憩を挟み 2 時間の神楽奉納で貴重な千葉市の無形文化財を見学させてもらいました。

八剱神社は社伝によれば日本武尊（やまとたけるのみこと）が東征のとき、この国に起こっていた国境の争いを平定し、改めて国境を定めたことに感謝して、土地の人々が東国鎮護の神として祭ったのが始めとされています。

本社に伝わる神楽は、享保元年（1716 年）の社殿再建の際に上総一宮玉前（たまさき）神社の社人が巫女舞（みこまい）、湯笹舞（やざさのまい）、猿田彦舞（さるたひこのまい）等から構成される十二座神楽とよばれる舞を奉納したものを、地元の人々が受け継いできたものです。三方吹き抜けの神楽殿で舞手がひょっとこ・おかめ・狐面等を被って黙劇風に舞う、いわゆる江戸神楽の流れをくむ舞であり、2 年に一度、7 月２７日の祭礼の日に地元の氏子により奉納されています。（千葉市指定無形民俗文化財「八剱神社の神楽および神楽書について」の千葉市教育委員会の説明板による。）

神楽の前に南生実町外からの見学者もいる（筆者も町外）ということで上記説明板記載の内容に加えた概要の説明がありました。神楽師は八剱神社の氏子の長男が、神楽師連で組織する「八剱講」に加入して代々習得・継承してきました。戦後、若者の継承者が減り、継承に危機感をもった若者約１０名が昭和 46 年（1971 年）に当時５０歳代の師匠にお願いをして教えを請い、伝授・継承をして現在に至っているとのことでした。当時の若者もすでに７０歳代となっているとの説明でした。

神楽は、正面・左右に向かって同じ舞をするので 3 回同じことをしているように見えるが、間違ってはいないとの説明もあり、初めて見る者には参考になりました。

見学には多くの子供達も参加しており、地元の貴重な文化財を継承していってくれたら良いと思いながら帰途につきました。（本稿は生浜地域誌第 15 号　2010 年 9 月 1 日発行の内容と一部重複しています）　（文責：うちかわ）